生活科学習指導案

授業月日：平成20年6月26日２校時9:30～10:15
場　　所：旭川市立朝日小学校第１学年広場
児　　童：男子22名女子21名こぶし2名計45名
授 業 者：　　玉井　一行・清水あゆ美
授業協力：旭川市旭山動物園飼育展示係教育担当
　　奥山英登さん他数名

１　単元名「生き物となかよくなろう！」

２　授業仮説

○ウサギの飼育活動と関連させた飼育活動を通してウサギやアサガオ，ヒマワリ，ニンジンなどの生き物と親しみ，「気づきの交流」を工夫することで，生き物への親しみをもち，より主体的にかかわり，大切にしようとすることができる姿。
〔単元で目指す子どもの姿〕

○「ウサギへの気付き」を交流し，旭山動物園の飼育係からのアドバイスを受け，自分とのかかわり，生命への気付きという視点から，ウサギとのかかわり方を見つめ直し，ウサギがもっと大好きになる姿。　〔本時で目指す子どもの姿〕

３　単元のねらいと子どもの実態

本単元は学習指導要領生活科の内容（7），と主に関連しています。「動物を飼ったり…，それらの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもち」「生き物への親しみをもち，大切にすることができる」という活動を【具体的な活動や体験】の中心として単元を構成しています。

関連した事前調査を行い，本学年の子どもの実態から重視したことは右の◎です。「家庭での飼育栽培経験の少なさ」に着目しました。本単元の飼育における具体的な活動や体験を通して主にかかわる「対象の中心」は『ウサギ』です。さらに，『一緒に活動する２年生』『旭山動物園の奥山さん』などの「ひと」とのかかわりを加え，①ウサギのことをもっと知ること，②ウサギともっとなかよくなること，③ウサギの飼育活動へ主体的に取り組もうとする態度を目指しています。

＜◎重視した子どもの実態＞
◎動物へのアレルギー症状のある子どもは 20 ％（8 人）いる。７名は特定の動物（イヌ，ネコ）に対してであり症状も軽度である。しかし１人はネコと鳥の強度の動物アレルギーであり，配慮が必要である。
◎家庭で小動物の飼育経験のある子どもは 26.2 ％（11 人）ととても少ない。
○現在家庭で小動物を飼育している子どもは，16.7 ％（7 人）である。
○現在家庭でウサギを飼育している子どもが１人いる。
○小動物の飼育への興味がある子どもは，90 ％（38 人）とかなり多い。
◎栽培経験のない子どもは 42.8 ％（18 人）と半数近い。

そこで，具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えさせるため，見付ける，比べる，たとえるなどの多様な学習活動を工夫します。ウサギとの出会いと飼育体験，そして別れ。ウサギとかかわることで，もっと元気に育ってほしい，もっと大好きになりたい，もっと上手に育てたいというような願いをもつことが期待できます。そして，動物の生命や自分とのかかわりの中での気付きがたくさん生まれます。そうした気付きを大切にし，取り上げていくことによって，動物や植物への親しみが増し，自分の生活を一層楽しいものにしていくことができます。

４　単元「生き物となかよくなろう！」の指導計画（１９時間扱い～本時８／１９）

第１次　はないっぱいになあれ　……４時間
第２次　ウサギを育てよう　……１１時間（本時４／１１）
第３次　はながさいたよ……２時間
第４次　たねとりをしよう　……２時間

５　授業づくりで大切にしたこと

(1) 単元の目標

〇ウサギを飼育し，アサガオやヒマワリ，ニンジンの栽培を通して，それらの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもち，また，それらは生命をもっていることや成長していることに気付き，生き物への親しみをもち，大切にすることができるようにする。

(2) 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
ウサギやアサガオの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもち，親しんだり大切にしたりしようとしている。	ウサギを飼ったりアサガオや野菜を育てたりするとともに，世話をしたことや生き物のことについて表現することができる。	動植物は生命をもっていることや成長していること，ウサギやアサガオの世話の仕方などに気付いている。

(3) 学習活動(次のまとまり)における具体の評価規準

ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気付き
①アサガオを育てて花をさかせようとしている。	①変化や成長の様子に合わせて水や肥料をやるなど，世話の仕方を考え，気付いたことを絵や文で表すことができる。	①育てているアサガオの生長や変化の様子を見付けてその生命について気付いている。
②ウサギとのかかわりを楽しみにしながら世話を続けようとし，ウサギのことが大好きになる。	②ウサギのお世話を自分なりに考えてかかわり，そのことを絵や文で表現することができる。	②飼育の直接体験からの気付きを実感し，育てているウサギに合ったお世話の仕方があることに気付いている。
③アサガオの花が咲くことを楽しみにしながら世話を続けようとしている。	③アサガオの花を使って遊ぶことができる。	③ウサギやアサガオのお世話を通して。動植物も生命をもっていることが分かっている。
④たねとりを通して育てる喜びを感じ，生き物への親しみをもち，大切にしようとする。	④世話の工夫や世話をして感じたこと，気付いたことなどを絵や文など自分の選んだ方法で素直に表現することができる。	④飼育・栽培活動を振り返り，生き物も自分たちと同じように生命をもっていることや，世話の大切さ，育てる喜びなどに気付いている。

(4) 単元構想表及び評価計画（１９時間扱い，本時８／１９）

次	時	学習の流れ	○主な学習活動 ◆他教科等との関連的指導	□評価計画(評価方法と見取りの視点) ・努力を要する子への指導の視点
	＊	事前調査	○質問紙法による事前調査により生き物とのかかわりの傾向やお世話の様子や気付きの実態を把握する	□保護者と子どもへのアンケート調査（質問紙法） ・飼育・栽培活動への興味・関心を出会いの活動へ生かす
第１次アサガオをそだてよう④	①	対象との出会い	○２年生からプレゼントされたアサガオの種との出会い ・思いや願いを表出し交流する。 ・２年生からのメッセージ 「学校で育てて花を咲かせてね！」	□行動観察「ア①」
		活動への見通し	第１次の共通課題～アサガオを育てて花を咲かせよう。	
	②	追究は日常の継続指導で	・アサガオの種をポットに蒔く。 ・ニンジンを間引いたらウサギたちにあげられるね。 ◆**道徳～しぜんとなかよし3-(1)** **「木を大切に」**⇒自然と自分の関係	□行動観察「イ①」(問いかけ) ・世話の仕方を調べているか
	①	活動のまとめ	どんな花が咲くのか楽しみだね	
			○見つけたよカードによる継続観察	□作品分析「イ①，ウ①」
第２次　ウサギを育てよう⑪	②	対象との出会い	**＊旭山動物園出張授業** ○ウサギたちとの出会い **ラウンドテーブルの設定Ⅰ** ⇒ウサギに対する気付きの交流 ○ウサギのお世話を開始する ・２年生と協力しよう ・自分たちにもできるかな ◆**国語～「どうぶつのはな」** ⇒動物のおもしろさへの興味・関心	□行動観察「ア②」 ・ウサギとのかかわりに積極的ではない子ども⇒対話と助言 □作品分析(カード)「ア②」(かき加え) ・ウサギのお世話に対して興味があまりない子ども⇒ウサギを抱かせる □行動観察(日常)「イ②」(問いかけ)
	①	活動への見通し	○ウサギのお世話について考える	□発言分析「ア②」
			ウサギを育てて，ウサギとなかよしになろう！	
	①本時	個性的な追求活動	**＊旭山動物園出張授業** ○飼育活動からの気付きの交流 ○旭山動物園飼育係からのアドバイス **ラウンドテーブルの設定Ⅱ** ⇒ウサギ飼育への思いや願い	□行動観察「ア②，ウ②」 ・体験を通した気付きか □作品分析（ワークシート）「ア②,ウ②」 ・ウサギと自分とのかかわりから ・気付きをなかなか記述できない⇒対話し書き加える
	①	活動の見直し	**＊旭山動物園出張授業** ○飼育活動の経過観察とアドバイス ◆**道徳～動物に優しく3-(1)** **「どうぶつにも心がある」**⇒飼育体験を資料と重ねて考えさせる	□発言分析「ア②，ウ②」 ・ラウンドテーブルの観察(問いかけ)
	②	個性的な	○ウサギとのお別れの準備	□作品分析「イ②」
	④	活動のまとめ	**＊旭山動物園でウサギとのお別れ会** **ラウンドテーブルの設定Ⅲ** ⇒ウサギの飼育活動から気付いたこと ○活動の振り返り	□日常の行動観察「ウ②」 ・ウサギに合ったお世話へ気付きを実感していない⇒交流と見取りのからの助言

第３次	②	多様な追究活動	○アサガオの花で遊ぶ。	□日常の行動観察「ア③，イ③，ウ③」
			アサガオの花で遊ぼう	
				□発言分析「ウ③」
第４次	②	活動のまとめ	○種取りと単元の振り返りをする。	□「ア④，イ④，ウ④」
			ウサギや野菜，草花のお世話は楽しかったね。もっと生き物が好きになったよ	

(5) 学習対象「ひと・もの・こと」の吟味

具体的な活動や体験の絞り込み

本単元を設定するために重視した子どもの実態から，飼育体験，栽培体験の少なさに着目しました。体験を通して感じることの大切さ，自分の体で感じたことの大切さを通して，生命の実感を重視しました。

そこで，教科目標と子どもの実態，一体的に取り扱う飼育と栽培活動の工夫の観点との関連から次のような活動や体験を絞り込み，重点化を図りました。

【本単元で重視する活動や体験】

１次（栽培活動）で吟味した内容

○アサガオ・ヒマワリの種まき
・２年生からのプレゼント
○野菜の種植えと**栽培活動との関連**
・ニンジンの栽培
○水やりなどのお世話

⇒２年生とのかかわり・日常化

○成長の様子を絵や言葉で表現する

⇒継続・意欲化

２次（飼育活動）で吟味した内容

○出会いの活動「ウサギとの触れ合い」
・旭山動物園出張授業
触れ合い活動直後から飼育活動開始

⇒外部講師の活用・飼育活動の意欲化
⇒地域の特色を生かした活動構成の工夫

○飼育する動物の吟味（ウサギ）

⇒出会いと，飼育体験，別れの演出
⇒２年生とのかかわりを重視

３次（栽培の活用）で吟味した内容

○アサガオの花で遊ぶ（スタンプ，お絵かき，押し花）

⇒自分とのかかわりを実感させる

４次（飼育・栽培のまとめ）で吟味した内容

○アサガオ・ヒマワリの種を取る⇒生命の連続性への気付き，プレゼント用

⇒**栽培と飼育とを比較**し，自分とのかかわりから同じ点を見付け実感させる

【本単元の重点】

子どもたちが飼育・栽培する生き物に対して，自分たちとのかかわりを一層深く主体的にかかわることができるような**体験からの気付きを実感させる**こと。

なぜウサギの飼育なのか

朝日小学校ではここ数年動物の飼育活動は行っていませんでした。ザリガニや昆虫，金魚や熱帯魚などほ乳類以外の飼育活動が中心でした。

今回，飼育活動について見直しを図り，プラス面とマイナス面を右記のように洗い出しました。特に着目したのはマイナス面の３点目です。ほ乳類を飼育することを通して子どもたちへのプラスの影響はたくさんあります。できれば継続飼育を行って成長の変化と共に子どもたちも一緒に成長することが可能です。しかし，長期の飼育活動では動物アレルギーの子どもたちへの対応が難しいこと，そして予算や冬期間のお世話の難しさなども考慮して，今回は，1ヶ月程度の飼育活動体験としました。

ウサギの飼育活動を吟味する

＜プラス面＞
- 心臓の鼓動や体温を感じられる。
- 家庭ではなかなか飼育できない動物との触れ合い（ウサギ飼育1名）。
- 出会いと別れを体験できる。
- 低学年でもお世話が可能である。

＜マイナス面＞
- 餌代にかかる費用が大きい。
- 干草を継続して手に入れる困難さ。
- 動物アレルギーへの対応が難しい。
- 冬季間等飼育継続が難しい。

また，栽培によって得られる野菜や種を自分たちのためだけに考えるのではなく，子供の生活に根ざすという点から，飼育する動物たちの餌にもなることを考えさせます。このことにより，栽培活動においても，より明確な目的意識をもったお世話が期待できます。

飼育活動は日常的なお世話という点から考えると，教室内または教室のすぐそば（広場や光庭などで行うこと）がより適切と考えました。

(6) 一人一人の個性を生かす単元構成の工夫

生き物に対する親しみを深める出会いの工夫

飼育・栽培活動は，継続して意欲的にお世話しようとする興味・関心を高めることが大切です。そのための出会いの活動を工夫します。栽培活動では，２年生が前年度に育てたアサガオの種と出会います。飼育活動では，市内の旭山動物園の協力をいただき，出張授業として教室広場で１・２年生合同の生活科の活動で多数のウサギたち（１０羽程度）と出会います。「ウサギはかわいいな」「ウサギと一緒にいると楽しいな」という気持ちを醸成します。子どもたちはウサギたちとすぐにお別れしたくない気持ちでいっぱいです。活動終了時のセレモニーの中で，旭山動物園の飼育係さんから子どもたちへ次のように問いかけてもらいます。

「今日のウサギとの触れ合い活動は楽しかったですか。」（楽しかった！）
「もっとウサギと触れ合っていたい人は，手を挙げてください。」（はい！）
「こんなにウサギのことを好きになってくれたので，旭山動物園のお兄さん達もうれしいです。」
「それなら，ウサギのお世話をしてみたい人は？」（はい！）
「でも，ウサギは，おしっこやうんちもするよ？」（だいじょうぶ！）
「それでも，お世話できますか？」（できる！できる！）
「先生方はお手伝いしないよ！」（自分たちでできるよ！）
「それでもだいじょうぶですか？」（はい！）
「そんなにみんなが言うのなら，先生方と相談してみるからちょっと待っててね。」
＜飼育係と教員で相談＞
「それでは，特別に朝日小学校に，このウサギをしばらく貸してあげます。でも，ちゃんとお世話できるかな？」（だいじょうぶ！）
「ちゃんとお世話ができているか，後で見に来るからね。よろしくね。」（はい！）

かかわりを意識させる表現活動の工夫

飼育・栽培活動は子どもレベルでの問題解決的な場面が自然発生的に期待できる活動です。しかし，意図的な働きかけがなければ一人一人に確かな力は育ちません。動物や植物に対する気持ちの変化や，そのかかわりを意識させる表現活動を単元構成上に位置付けます。そして，子どもレベルでの問題解決的な見通しを大切に考え，「自分のできる活動」を考えさせる場面を重視しました。

【かかわりを意識させる表現活動の工夫】
○「見つけたよカード」（動物と自分との関わり，植物と自分とのかかわり）
○動物園へのお礼の手紙（動物園の職員や動物と自分とのかかわり）
○気付き交流後の感想カード（友だちと自分とのかかわり）　など

(7) 自分のかかわりかたのよさに気付く自己評価の工夫（本時）

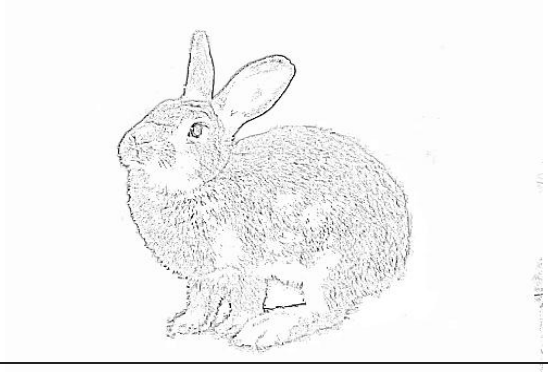
第２次の活動の中心は「ウサギのお世話」です。ウサギへの「思い」や「願い」が具体化し，だんだん自分にとって楽しい，うれしい，親しみを感じるなどへと深まったり，広がったり（多様化）していくことを求めています。

１年生の子どもたちにとって，よりよいかかわり方とはどういうものなのか，自分のよさになかなか気付きません。そこで，自己評価にも活用できるように，本時で使用するワークシートを次のように工夫しました。

【自己評価活用のための工夫点】
①ウサギの写真から加工する。
②気付きを矢印で書き込ませる。
③見取った情報(行動観察)や，つぶやき，特記事項は，指導者が書き込む

指導者やかかわった友達，専門家などからの他者評価を効果的に関連させることで，一層自分自身のかかわりのよさを実感することができると考えました。

せいかつ「ウサギとなかよくなろう」
1ねん　くみ　なまえ



(8) ウサギへの「思い」や「願い」を表出し合うラウンドテーブルの設定（本時・他）

飼育活動を，より主体的に行う質的な変化を求める本単元では，一人一人のウサギへの「思い」や「願い」が具体化し，広がったり，深まったりすることが重要です。

一人一人の「思い」や「願い」を表出することができるための働きかけの１つとしてラウンドテーブルを重視しました。特に，ラウンドテーブルⅡでは，友達との情報交流をすることによって，自分なりの飼育活動への意欲化と自分なりのかかわり方への実感を期待しています。

ウサギと直接かかわるからこそ気付いたり感じたりすることのできる素晴らしさの価値を実感することができると考えました。

＜ラウンドテーブルⅠのねらい＞
ウサギとのふれあいから感じたことの交流
＜ラウンドテーブルⅡのねらい＞
ウサギ飼育の「思い」や「願い」を交流
＜ラウンドテーブルⅢのねらい＞
ウサギの飼育活動から気付いたことの交流

(9) 他者評価を生かし自分らしさを高め合う学び合いの工夫（本時）

動物の飼育活動では，一層の愛情をもって動物とかかわれるようになることをねらっています。そこで，本時では，専門家として旭山動物園の飼育係（学芸員）の奥山さんに協力していただきます。

交流場面においては，担任の司会で子ども同士をかかわらせたり，専門家の立場からの意見を求めたり，子どもたちへ質問したりしていただくことによってウサギへのかかわりを考えさせます。次の観点から，子どもたちの話し合いを整理していきます。

【アドバイスや質問の主な観点】
＊体験を通した気付きへの価値付け
＊ウサギとかかわることへの賞賛と励まし
＊専門家の立場からの注意事項

＜本時で期待する子どもの姿＞

①先行情報としての知識や表面上の発見		②体験を伴った実感としての気付き
・目で見て分かること ・聞いて分かっていること ・自分のイメージ	→	・触れ合って分かること ・触ってみて分かること ・自分とのかかわりで

①の気付きは，ウサギと直接かかわらなくても気付くことができます。本時では，気付きの質の高まりを期待しますので，②のような直接体験を通した気付き，そこから生命を実感として感じることができた気付き，自分とのかかわりの中でウサギが特別な存在となった気付きなどへと高まることを求めています。

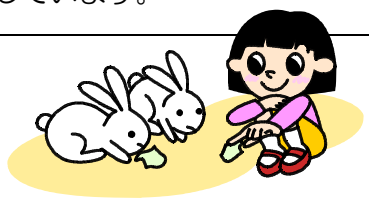
触っただけよりも，お世話を通して継続的なかかわりができている子どもは，一層自分とのかかわりが強くなっているはずです。そんな質的に高い気付きを，子どもたちに価値付け，広げていきたいと考えています。

(10) 主体的なかかわりに気付かせる交流活動の工夫（本時）

主体的なかかわり方のよさに気付かせる板書や発問の工夫

本単元で重視した子どもたちの『主体的なかかわり』とは，自分とのかかわりで考えることを意味しています。子どもの側からの「かわいいと思う気持ち，自分の楽しみ」としてのかかわり方と飼育する相手（ウサギ）の側をも考えたかかわり方は異質のものです。このことに子どもたち自身が気付き，自分なりのかかわり方を考えさせるために，体験を通した気付きを分類した板書や自己中心的な意識を揺さぶる発問・専門家からの助言の工夫によってその違いに気付けるようにしていきます。自分の生活（飼育・栽培，休み時間の過ごし方など）とのかかわりで考えようとする態度を期待しています。

【主体的なかかわりへの気付きを生む発問の例】
〇餌や水はたくさんたくさんあげてよいですか？
〇かわいいからだけでお世話するのですか？
〇ずっとみんなで交代で抱いていてもいいですか？



（11）地域の特色を生かした外部講師の活用（本時・他）

本単元の飼育活動では旭山動物園の協力を得て，様々な体験活動や外部講師とかかわる活動を行います。教育活動は旭山動物園が大切にする３つの柱の１つですので，子どもたちが動物とかかわる活動については，最大限の協力を得ることができました。

本単元の構想にあたり，４月当初から飼育活動についての打合せを行い，協力体制と準備を進め，以下のように本単元のねらいを実現するための貴重な協力を得ることができました。

【本単元で旭山動物園とかかわる活動】

①事前打合せ～飼育活動や単元構想内容の打合せ，出張授業の事前打合せ（計３回）
・出張授業内容の具体的な内合わせ，役割分担等の確認

②出会いの活動～旭山動物園出張授業Ⅰ
・「こども牧場」からウサギ１０羽が光庭にやってくる。
・ウサギと子どもたちとの自由な交流（学芸員＋飼育展示係）。
※お別れの場面で「飼育活動」への誘いを演出を行う。

③追究活動Ⅰ～旭山動物園出張授業Ⅱ（本時）
・ウサギとのかかわりのようすについて偵察に来校。（学芸員）
※ウサギとの主体的なかかわり方へアドバイスや賞賛を行う。

④追究活動Ⅱ～旭山動物園出張授業Ⅲ
・１・２年生の飼育活動へのアドバイスに来る。
※あと１週間でお別れということを告げる。
※お別れへの布石として，意欲の継続とお世話の質的向上を図る。

⑤活動のまとめ～旭山動物園へ１・２年生全員でウサギを返しに行く
・別れの演出，路線バスの利用
※ウサギの飼育体験を通して得た「気付き」を実感し高める。

７　本時の学習

（1）本時の目標（１学年合同授業～Ｔ１玉井，Ｔ２清水）

○ウサギのお世話を通して，ウサギについて自分なりに感じたこと見付けたことを発表し合いかかわり方の違いを考えることで，体験を通した主体的なかかわり方のよさに気付き一層ウサギが大好きになり，お世話をがんばる気持ちが高まる。

（2）本時の展開

主な学習活動	◆見取りの観点【学習活動における具体の評価規準】	
	○教師の働きかけ（Ｔ１）	○教師の働きかけ（Ｔ２）
１　これまでの飼育活動を想起する。 ２　本時の学習内容を確認する。	○飼育活動の見取りから「ア②」にかかわって顕著な子どもの様子を紹介する。	○広場にウサギ(ケージ)を　置いておく。 ○学習内容を黒板へ提示する。
ウサギのおせわや　かかわりかたについて　かんがえよう。		

3　これまでの飼育活動からの感想をる。 ・ウサギの耳が長い ・ウサギのおしっこはくさい 4　ワークシートへの気付きの書き込み	「ウサギのお世話をして感じたことを２人に発表してもらいます。」 ○２名程度紹介する（意図的な指名） ○この発表をモデルにワーシートへの書き込ませる 「これから渡すプリントに，ウサギのことで気付いたことをかきます。」 「矢印を付けて，絵や文でかきましょう。」 ○ウサギの写真をもとにしたワークシートを作成し気付きを書き込ませる。	示する。
5　これまでの飼育活動の感想発表 ・ウサギはとてもかわいい ・かわいいけどさわるのがまだこわい ・つめや歯がこわい ・ウサギが怒るときがある ・毛がふさふさで気持ちいい ・だくとあたたかい		○黒板に分類しながら記入する(T2) ・表面上の気付き(見た目や知識) ・触れ合って感じた気付き
6　旭山動物園の飼育展示係(奥山さん)の質問やアドバイス（５の発表中に） ＜質問やアドバイスの観点＞ ＊体験を通した気付きへの価値付け ＊ウサギとかかわることへの賞賛と励まし ＊専門家の立場からの注意事項	**ラウンドテーブルの設定Ⅱ** **⇒ウサギ飼育への思いや願いを交流** 「ウサギの飼育でどんなことをやってみたいか，グループでまるくなって話しましょう。」	
7　気付きの質の違いについて考える。	「黒板の１と２で書いてあことは，何が違うのか考えましょう。」	
8　ウサギ飼育についての話し合い(ラウンドテーブル)	◆「ア②」(発言分析，行動観察) ・ウサギのお世話を楽しみにしているか ・主体的なかかわり方のよさへ気付いているか	
9　ウサギとのこれからのかかわりかたについてそれぞれ考える。	「これからウサギとどのようにすごしたいですか。」	
ウサギをもっともっと好きになりたいな　ウサギのお世話もがんばるよ！		
10　ウサギのお世話でがんばりたいことをワークシートに書き込む。	◆「ア②，ウ②」（ワークシートの分析） ・お世話への意欲が高まっているか ・主体的なかかわりへの意欲は高まっているか （問いかけによる書き加えも行う） ⇒日常観察に生かす（見取る対象を重点化する）	

◇本時で目指す子どもの姿◇

○ウサギへの気付きが，友達との交流や専門家(旭山動物園飼育展示係)からのアドバイスや賞賛を通して，表面的な見て分かる聞いて分かる気付きから，体験を通して実感できた生命や自分とのかかわり「心臓の鼓動，体温のぬくもり，毛の柔らかさ，自分が好きなところなど」の気付きのよさへと質的に変容を遂げる姿。

(3) 本時の評価規準

(評価規準の具体（評価方法～発言，カード，観察)

十分満足できる(A)：ウサギへの自分なりの気付きについての質的な高まりを自分とのかかわりでとらえることができる。
・自分は，～だからウサギが○○だ。

おおむね満足できる(B)：ウサギへの自分なりの気付きが体験を通した価値あるものだと実感することができる。
・ウサギは温かいから生きている。心臓が動くのが分かった。

努力を要する児童への指導：友達の気付きにピンとこない児童は，その場でウサギに触らせたり，抱かせたりして，実感させる。(事前の見取りを活用する)

7　第２次第１時の学習＜旭山動物園出張授業（１・２年生合同授業）＞

(1) 第２次第１・２時の目標（Ｔ１玉井，Ｔ２清水，Ｔ３小林，Ｔ４山内）

〇ウサギとの出会いの活動で，自分なりにウサギとかかわることを通してウサギへの興味・関心を高め，お世話しようという気持ちをもつことができる。

(2) 第２次第１・２時の展開（Ｔ１進行，Ｔ２～Ｔ３は学級ごとの見取りと個別指導）

主な学習活動	◆見取りの観点　〇教師の働きかけ 【学習活動における具体の評価規準】
１　旭山動物園の飼育展示係(学芸員)奥山さん，子ども牧場の佐藤さんたちと出会う。	〇旭山動物園「こども牧場」から来たウサギたちであることを紹介する。
２　本時の学習内容を確認する。	〇学習内容を提示する。
ウサギとたくさんふれあおう	
３　ウサギたちと出会う。	〇ウサギ１０羽との出会い。 （光庭を活用，雨天時は広場） ※環境構成の工夫
４　かかわりかたについて簡単に紹介する。 ・さわってみたい。 ・だいてみたい。 ・だきしめてみたい。 ・おいかけっこしたい。	〇「ウサギたちと光庭でふれあいます。」 「どのようににふれあうことができそうですか。」
５　ウサギと自由にふれあう。 ※２年生（１組，２組） ⇒１年生（１組，２組） 待っている間は窓から様子を観察する。	〇「それでは，自由にふれあってもらいます。最初は２年生です。」 ◆ウサギとのかかわりが消極的な子どもとその様子を見取る。 ◆積極的な子どもを活動の様子を見取る。学級担任が見取り役となる。 〇飼育係と他の教員でウンチやおしっこの処理の様子を見せておく。
６　ウサギについての話し合い(ラウンドテーブル)	〇 ラウンドテーブルの設定Ⅰ ⇒ウサギとのふれあいから感じたことの交流
７　旭山動物園の奥山さんから子どもたちとお別れのあいさつ	〇飼育活動への誘い ※指導案５ページ参照
ウサギをもっともっと好きになりたいな　ウサギのお世話もがんばるよ！	
８　奥山さん達とのお別れ	
９　ウサギとのふれあいから気付いたことを「見つけたよカード」に記入する。	「ウ②」（自己評価の作品分析） ・ウサギとのかかわりへの期待（問いかけによる書き加え） …研究視点２－３ ⇒日常観察に生かす（見取る対象重点化）

資料１…目標分析表

１年生活科「生き物となかよくなろう」目 標 分 析 表

【生活科の教科目標】
具体的な活動や体験を通して，自分と身近な人々，社会及び自然とのかかわりに関心をもち，自分自身や自分の生活について考えさせるとともに，その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ，自立への基礎を養う。

具体的な活動や体験を通して

- 自分と身近な人々，社会及び自然とのかかわりに関心をもち
- 自分自身や自分の生活について考えさせるとともに
- 生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ

自立への基礎を養う ➡ 学習上の自立 生活上の自立 精神上の自立

- 自分自身への気付き
- １　集団における自分の存在に気付く
- ２　自分のよさや得意としていること，また，興味・関心をもっていることなどに気付く
- ３　自分自身の成長に気付く

学 年 の 目 標

(1) 自分と身近な人々及び地域の様々な場所に関心をもち，それらに愛着をもつことができるようにするとともに，集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え，適切に行動できるようにする。

(2) 自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心をもち，自然を大切にしたり，自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。

(3) 身近な人々，社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに，それらを通して気付いたことや楽しかったことなどを言葉，絵，動作，劇化などにより表現できるようにする

【生活科の内容（関係分）】
(7) 動物を飼ったり植物を育てたりして，それらの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもち，また，それらは生命をもっていることや成長していることに気付き，生き物への親しみをもち，大切にすることができるようにする　…具体的な視点カ…身近な自然との触れ合い

＜指導計画作成上の配慮事項（関係分）＞
(1) 地域の人々，社会及び自然を生かすとともに，それらを一体的に扱うように学習活動を工夫すること。
(4) 第２の内容の(7)については，２学年にわたって取り扱うものとし，動物や植物へのかかわり方が次第に深まるようにすること。
(6) 国語，音楽，図画工作など他教科等との関連を図り，指導の効果を高めるようにすること。

＜学習指導要領改訂の方向（関係分）＞
○安全教育や動植物との関わりなど現代教育課題への対応。⇒継続的な飼育栽培
○８内容から９内容へ付加された(8)「交流」
⇒自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い，身近な人々とかかわることの楽しさが分かり，進んで交流することができる。
○多様な学習活動や表現する活動との教師の子どもへの関わり⇒見つける，比べる，例えるなど多様な活動

＜重視した子どもの実態（飼育活動）＞
○動物へのアレルギー症状（ネコ等）のある子どもは症状は軽度であるが，１名重度である。
○子どもたちの家庭での飼育経験には質的な差が大きい（小動物の飼育経験のある子どもは11％程度である）
○ほとんどの子どもたちは動物が好きである⇒飼育活動への興味・関心は高い

＜重視した具体的な活動や体験＞
○アサガオの栽培　○気に入った花の栽培(一人一鉢)　○野菜の栽培(ウサギの餌も考慮)
○水やりや雑草抜き，肥料などのお世話　○飼育・栽培の様子や気付きを伝える活動
◎観察カードへの表現　◎動物への気付きの交流
◎ウサギについてお世話を通して気付いたことの交流【本時】

【単元目標】
○ウサギとその赤ちゃんを飼育したり，野菜や自分で種を選んだ草花を育てたりすることを通して，それらの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもち，また，それらは生　命をもっていることや成長していることに気付き，生き物への親しみをもち，大切にすることができるようにする。